九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

SNSは民主政治を乗っ取るか ： 京・江戸・博多、そして巴里 ： 34

南野, 森
九州大学大学院法学研究院 ： 教授

https://hdl.handle.net/2324/7431376

出版情報：福音宣教. 79 (1), pp.20-21, 2025-01-01. Oriens Institute for Religious
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

京・江戸・博多、そして巴里

南野 森●憲法学者

34 ＳＮＳは民主政治を乗っ取るか

去る11月17日投開票の兵庫県知事選挙の結果は、多くの人々の予想に反するものであったかもしれない。公益通報者保護法違反や県職員へのパワハラ等の疑いにより、県議会が設置した調査委員会（いわゆる「百条委員会」）に招致され、その調査中に議会の全会一致で不信任を可決された当時の知事が、辞職して改めて選挙に出馬、45％を上回る得票率で再選されたのであった。

選挙前には前知事の街頭活動に集まる聴衆はごく僅かであったのに、選挙が進むにつれ聴衆は増え、やがて大群衆が集まるようになった。激変の要因を特定することは難しいが、七人の候補者のうちの一人が自分への投票ではなく前知事への投票を呼びかけたり、選挙後には前知事の再選のためＳＮＳを使った広報活動を一手に引き受けていたと自称する広告代理店社長が登場し、それが運動員買収といった公選法違反の罪に該当する可能性が取り沙汰されたりという、異例づくめの選挙であったことはたしかである。

新聞やＴＶの大勢が前知事の疑惑追及に熱心でその再選に否定的であったのに対し、Ｘ（旧Twitter）やYouTubeといったＳＮＳの大勢は逆であったようである。徐々に前知事（と前知事を支援するもう一人の候補）を支持する発信が増え、対立候補への誹謗中傷や虚偽情報（フェイク・ニュース）を拡散するものも多かった。

私のような古いタイプの人間にとっては、新聞やＴＶこそ信頼できる情報源であるが、最近は、若者のみならず中高年層でも、新聞やＴＶよりもＳＮＳを信じるという人が増えている。

トクヴィル（Alexis de Tocqueville, 1805-1859）の肖像画（1850年、Théodore Chassériauによる油絵）。トクヴィルは、1831年４月から32年２月にかけてアメリカを旅行し、のち『アメリカのデモクラシー』全２巻を出版した（1835年、1840年）。

百条委員会の委員を務めた県議らに猛烈な嫌がらせや暴言が投げかけられたことを批判した私のＸの投稿に、県議らこそ嘘つきだ！との反論（？）を送ってこられた匿名の方は、自己紹介欄に、一連の問題に違和感を覚え自分で調べ始めたところＴＶに騙されていたことに気が付いた、と書いておられた。

選挙後にＴＶ取材に応じた60歳の男性は、前知事を応援する別候補のＳＮＳを見て真実を知ったと語り、なぜ信じるのかと問う記者に「その候補が証拠があると言っていたから」と答え、証拠を確認したのかと問われると「証拠があろうがなかろうが全体として自分がその話を消化できたから（良い）」と答えている。

もちろん新聞やＴＶにも時には誤報があるが、それでも、プロの記者が取材・裏取りをし、何重にもチェックをしてはじめて報道されるという、まっとうなメディアの慎重なありようは、誰であれ「これが真実だ」と容易に発信できてしまうＳＮＳの玉石混淆の世界とは、やはり信頼度において大きな差がある。

19世紀前半のフランスの政治思想家トクヴィル研究でも高名な政治学の宇野重規・東大教授は、「人々はＳＮＳを信じたというよりも、ＳＮＳをきっかけに、既成メディアの報道を信じない意志を表明したともいえる」と指摘している（朝日新聞11月28日朝刊）。そして教授は続けて言う。「このことはもちろん、有権者が既存の政党やメディアに判断を委ねず、自ら考えようとしていることの現れでもある。ただし、２世紀前の思想家トクヴィルはすでに『自分で考えようとするほど、他人に動かされやすくなる』と指摘している。」と。

みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の内山奈月との共著で好評を博した『憲法主義』（PHP文庫）ほか著書多数。